研　究　概　要

研究者（所属・氏名）：保健衛生部　小和田和誠

研究課題名	A 群ロタウイルスの流行状況の解明
共同研究者 (担当分野)	坂井 伸成　、高橋 美帆　（検体処理、検査） 東方 美保　（調整全般） （令和元年度から令和２年度まで担当：酒井 妙子）
研 究 期 間	令和元年度から令和３年度まで（３年間）
研究の背景 および目的	A 群ロタウイルスは、感染性胃腸炎の発症要因の一つである。小児の重症急性胃腸炎患者の多くは､A 群ロタウイルスが原因であると考えられている。脳症など重症化する危険性があることから、近年は感染症予防が重要視されており、ロタウイルス感染症は、基幹定点医療機関の報告対象疾患にもなっている。 ロタウイルスには 11 本の遺伝子分節があり、構造タンパク(VP)と非構造タンパク(NSP)がコードされている。内殻の VP6 の抗原性に基づき A～G 群に分類され、ヒトの間で最も流行するのは A 群である。また VP7、VP4 については中和抗原を有すると考えられており、これらの領域における遺伝子型調査が広く行われている。 ロタウイルスのワクチン接種は平成 23 年から任意接種が行われ、令和 2 年 10 月からは定期接種となっている。ワクチンの普及には流行株の遺伝子型の把握が重要であるが、福井県内ではこれまで遺伝子型の検査を行っておらず、その流行株の変遷等は不明である。 そこで福井県内で検出された A 群ロタウイルスの遺伝子型を検査し、近年の流行状況について調査する。
研 究 方 法	福井県内の協力医療機関（小児科）にて感染性胃腸炎を呈する患者から採取された糞便検体の中で A 群ロタウイルスが検出された検体を用い、遺伝子型別検査方法の検討および遺伝子型別試験を実施する。 臨床検体の使用について、福井県衛生環境研究センター・健康福祉センター倫理審査委員会において承認を受けている。
研究の特色	A 群ロタウイルスの遺伝子型別を行うことにより、福井県内における流行状況が明らかになる。
期待される 成果	県内の A 群ロタウイルスの流行状況が明らかになることにより、ロタウイルスワクチン接種の評価にが可能となる。感染症予防やワクチン接種の啓発につながる。 また、当センターでの検査手技の確立、サーベイランス機能の充実につながる。